

委員	ページ	項目	ご意見等
1 福田	0	はじめに	1行目「都の文化の影響を色濃く受けた文物：不要では?」、4行目「上野城下町を中心として、都市文化が花開き：上野城下町を強調しすぎでは?」、5行目「芸術の町：根拠は?」、7行目「俳諧（以下）：例示の順番に違和感」、9行目「もある：も多い」、「作家のものが含まれる：作家も多い」。例示以外も根拠や用語の使い方等、再度見直しが必要と思われる。
2 植田	0	はじめに	7行目伊賀市には、俳諧、古文書等、考古、民族、美術工芸の・・・とあるが、古文書等は並列するのに仲間が異なるように感じる 10行目には、別の並びがある 10行目は「これらは」はにまとめてはどうか 11行目「貴重な遺産」現在活躍中の方のもあるのでは? 9行目 また、美術や工芸の作家には、・・・作家のものが含まれる⇒作家が含まれる
3 植田	1	これまで	1～3行目 進めてきた。検討されたがの主語は? 芭蕉翁250年忌を契機に俳聖殿と芭蕉文庫の建設があわせて検討されたが、実現には至らなかった。⇒どちらも建設されなかったように読める。 俳聖殿は生誕300年昭和17年に竣工している。 「芭蕉文庫」の建設が希望され⇒せめて「望まれ」に
4 植田	1	これまで 建設に係る検討	「・・・委員会が設置され、…答申され」が三個所あるが、委員会を設置するのは「市」、答申するのは「委員会」⇒・・・委員会を設置し、・・・答申され
5 植田	2	これまで 施設の整備	「歴史文化の特徴を」⇒豊かな歴史文化を
6 植田	2	これまで 美術館建設に係る 動き	「・・・会」が市へ、・・・提出された。⇒「・・・会」から市へ、・・・提出された。
7 福田	3	課題	市民が、自らの愛着や誇りを感じられる施設がないことを明記すべきではないか。 まずは、地域の歴史文化があるべきで、俳諧については、その前提のうえで記述すべきではないか。

委員	ページ	項目	ご意見等
8 辻村	3	美術博物館の必要性	【文化的・歴史的な価値の保護】の見出し語の意図するところが伝わりにくい。「価値」という概念的で実体のない事柄を表す言葉ではなく、説明文で使用されている「遺産」の方が理解しやすい。
9 辻村	3	美術博物館の必要性	3項目にまとめられているが、それぞれの説明部分に内容が重複するものもあり、区分が曖昧である。内容を整理する必要がある。
10 植田	3	必要性	「展示できる施設がないことから・・・でありながら」⇒「展示できる施設がないため・・・さえも」 価値の保護にも「遺産」とある。限定するのか？ 同項「しかし・・・現状である」不要
11 福田	4	伊賀市の未来のため	「ヒトと文化がつながる」という意味がよくわからない。 「新しい文化を創造」することが、目的ではないはず。
12 菅谷	4	必要性	必要性全体に言えることではあるが、市民向けに訴える形であるが、来訪者（観光客とまでは言わないが）に向けて伊賀市の文化・芸術を知ってもらうことや、9ページにある情報発信の拠点としての必要性も明確に盛り込んでいかげんでしょうか。
13 植田	4	必要性	第2章の基本理念・めざす姿と方向性において、芭蕉関連施設は、「つながる世界 伊賀の魅力発信の拠点」として、方向性は「全国の中心的存在」として位置づけされていることから、第1章に、芭蕉関連について「世界」「日本」の視点から見た必要性を強調する必要がある。
14 植田	5	基本構想の位置づけ	5ページに、「（仮称）新芭蕉翁記念館基本構想を踏まえ」と記載されていることから、1ページの「新芭蕉翁記念館の建設に係る検討」に、これまでの詳細な検討の経緯が書かれてはいるが、なぜこの度、芭蕉翁記念館が「伊賀市美術博物館」基本構想に含まれることとなったかを記載すべきである。また、これに関連して、「（仮称）新芭蕉翁記念館基本構想を踏まえ」ではなく「基本に据え」あるいは「中心に」とすべきではないか。

	委員	ページ	項目	ご意見等
15	福田	6	基本理念	地域の魅力を伝える資料を適切に保存するための「収蔵庫」の必要性を記載すべきではないか。
16	辻村	6	基本理念	見出し語「つながる未来」「つながるヒトヒト」「つながる世界」の意図が伝わりにくい。「つながる」で全てを統一するのは難しいのではないか。また、前項と同じく、説明部分に内容の重複があり、整理する必要がある。「ヒト」「モノ」「マチ」というカタカナ表記には意味があるのか。人間、資料、町の持つ豊かさ・奥深さなどが、単純な記号として扱われている印象を受け、違和感がある。
17	辻村	6	美術博物館の必要性 基本理念 美術博物館の方向性	3ページ・6ページの必要性・基本理念のポイントは、以下の4点かと存じます。それぞれのテーマに沿って、説明内容を整理、説明用語を工夫する必要があります。 ①まもる（文化・歴史遺産の保存と継承の拠点） ②つどう（地域の学びと交流の拠点）→地域活性 まちづくり ③つながる（情報発信拠点）→伊賀魅力を国内外に発信 俳句俳諧研究の中心として最新の研究成果を発信 学校・企業・他のミュージアム等との連携 ④はぐくむ（人材育成機関）→芭蕉の俳諧・文化・歴史遺産に触れ豊かな心をはぐくむ 子どもたちの未来を創る 若手アーティスト・研究者の育成 現役・シニア世代の学びの場（子ども～シニアまで生涯学習の場） 資料の保存は喫緊の課題であり、美術博物館の存在意義の第一義であると思います。開館後も将来にわたって持続的に資料を守り続けるためには、市民の理解・協力が不可欠であると考えます。そのためには、美術博物館（市）によって守られた資料を、鑑賞し、学習するのみならず、地域住民が「まもる」ことにも積極的に関わることができる場になれば、と考えております。例えば、資料の補修・保存・整理や、資料の解説などに地域の人々も参加できるような機会を作るなど。地域の人々の郷土への愛着を、また、未来の学芸員を「はぐくむ」ことにつながるのではないかと考えます。できれば、開館前の準備期間からこのような機会を設け、地域の人々と「共に守ってゆく」という意識を高めることができれば、などと思えます。
18	植田	8	方向性	「美術博物館のめざす姿を実現するためには」⇒「美術博物館は」
19	福田	9	方向性	「収集・保存」の項目がないので、項目をたてるべきではないか。

	委員	ページ	項目	ご意見等
20	福田	9	方向性 調査研究	タイトルは、「伊賀の歴史文化の拠点・俳文学の拠点」と逆転すべきではないか。 伊賀にとって俳句は重要ではあるが、まずは市民全体にかかわる事項が先にくるべきで、本文も伊賀の歴史文化を先に記載すべきではないか。
21	植田	9	調査・研究	同じ内容の繰り返しに感じる めざすことのためにすべきことが分かりにくい
22	福田	10	運営組織	ミュージアムの成否は、必要な人材の確保によるところが大きいと考えるが、記述が不十分である。 「人材の配置を検討する」とあるが、必要最小限のことなので、「人材を配置する」とすべき。 前段を後ろにまわして、「また、準備段階から、計画的に学芸員を採用し、市民のニーズに応じていく。」と明記し、必要な人材を計画的に確保できる体制を整えるべきである。
23	福田	10	運営形態	中長期的な視点に立つならば、「効率的な運営形態」だけを目指しては、市民のニーズに応えられるミュージアムを運営は難しいと思う。 必要な人材は市が責任をもって計画的に採用すべきで、「市の財政状況」云々をこの項に記述する必要はないと思う。 例えば「中長期的な視点に立った人材を確保を図るとともに、効率的な運営形態についても検討する。」とすべきではないか。
24	井上	10	運営形態	運営形態についての議論はまだ先と思うが考えを伝えたい。 美術博物館の運営体制について、市直営やPFI、指定管理者制度などがあるが、民間の運営になると儲けや経費縮減の考えが必要になるため、伊賀市の規模では難しいのではないかと考える。どれだけ良い建物を作っても、実際に企画運営するのは学芸員。その学芸員が「やりがい」を持って仕事ができず、レベルアップも望めにくくなると考えるので、良い美術博物館にならないと思う。 市が所蔵する作品や資料を市として責任をもって保管・活用するという観点からも、美術博物館は市直営が望ましいと考える。